



水稲の栽培管理について

～ 田植え後から6月下旬までの管理 ～

●田植え後の水管理

田植え後は、保温のため3～4日間は水深3～5cmを保ち、活着後は分けつを促進するため2cm程度の浅水管理を行いましょう。(風の強い日、低温の日も深水で管理してください)

●6月上旬頃から間断灌水を！

気温・水温が上昇してくると水田の有機物の分解が進みガスが発生しやすくなります。間断灌水を実施してガス抜きを行いましょう。

●中干しを確実にいき、無効分けつの防止と根張りの良い稲体づくりを！

有効茎数(葉が3枚以上の茎)が16～18本まで分けつが進むと中干しの時期となります。通常7～10日間を目安としますが、生育状況や天候・土壌条件によって期間を調整しましょう。5月中旬以降に田植えを行った場合は、中干し時期が梅雨の最中となるため、中干しを長めに行いしっかりと根を張らせましょう。水の循環を良くするため、この時期に作溝を作りましょう！

※近年問題となっている「乳白粒」予防のため、間断灌水・中干しをしっかりと行き、稲刈りの10日前頃まで水を当てることのできる固く締まった水田に仕上げましょう！

除草剤(中・後期)

除草剤名	使用時期	使用量(10a)	使い方・注意事項
セカンドショットS ジャンボMX	移植後14日～ノビエ3.5葉期 但し収穫45日前まで	小包装(パック) 20個(500g)	中期ジャンボ剤5～6cmの灌水状態で散布。クログワイ、オモダカ等の多年生雑草に高い効果をしめす。
ウィードコア1キロ粒剤	移植後7日～ノビエ4葉期 但し収穫60日前まで	1kg	すばやい効果を示し、ノビエ・SU抵抗性を含む広葉雑草や多年生雑草まで動じ防除ができる。
レプラス1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4葉期 但し収穫60日前まで	1kg	ホタルイ・クログワイ・ノビエ・オモダカに強い成分を混合し殺草力を高めた中後期除草剤。
クリンチャー1キロ粒剤	移植後7日～ノビエ4葉期但し 収穫30日前まで	1kg	ノビエ専用剤 水の出入りを止めて湛水状態で散布。 ハーブ米、つや姫も使用可能
モゲトン粒剤	ウキクサ類・藻類の発生始～発生盛期 但し収穫45日前まで	1～3kg	藻類・表層剥離に効果がある。
バサグラン粒剤・液剤	移植後15～55日 但し収穫60 日前まで(液剤は収穫50日前)	3～4kg 500～700mℓ 水70～100ℓ	落水状態(足跡に水が残っている程度)で散布。イネ科雑草を除く多様な多年生雑草に効果がある。 ハーブ米、つや姫も使用可能
クリンチャーバスME 液剤	移植後15～ノビエ5葉期 但し収穫50日前まで	1,000mℓ 水70～100ℓ	落水状態(足跡に水が残っている程度)で散布。ノビエ・広葉雑草に効果あり。 ハーブ米、つや姫も使用可能

いもち病の予防(6月中旬頃)

いもち病は、気温25～28℃で降雨が連続すると発生しやすくなります。いもち病の予防剤入りの箱処理剤を使用していない場合は、6月中旬から7月上旬頃に特に注意していただき、「コラトップ粒剤」等の予防剤を散布してください。※JA育苗センターの主食用苗については、いもち病の予防剤入りの箱剤を使用しております。

田んぼの雑草図鑑



ホタルイ



ホタルイ(3葉期)

【注意！】

ホタルイは草丈3cm程度の3葉期までに除草剤を散布しないと取りこぼしが多くなります。



オモダカ



クログワイ